

エコノミカ公式ルールブック
(2015年8月8日大会用暫定版)



1. ゲームの概要

このゲームは対戦型のカードゲームである。「イベント」や「リスクヘッジ」を駆使して、自分の「アセット」の価値を高めたり、相手のアセットの価値を落としたりして勝利を目指す。

2. 勝利条件

プレイヤーは、以下のいずれかを目指して戦う。同時に起こった場合は、上に記載されているものから優先とする。

2-1. 相手より先に、ストックゾーンに5枚のアセットを置く。

2-2. 相手のフローゾーンにあるアセットを0枚にする。

2-3. 2-1、2-2が2人同時に発生した場合、その原因となるイベントカードを行使した側の勝ちとなる。

2-4. 山札がゼロになった瞬間に相手より多いストックを持っている。

2-4-1. ストックも同じ場合は、山札がなくなったプレイヤーの敗北となる。

2-4-2. イベントの効果により2人同時に山札が尽き、かつ2人のストックが同数だった場合は、イベントを行使した側の勝利とする。

2-5. ゲームに制限時間が設定されている場合、制限時間が経過した時点でも決着がついていない場合、以下の順番で勝敗の判定を行う。

2-5-1. ストックの枚数が多い方が勝利する。

2-5-2. フローゾーンのアセットの枚数の多い方が勝利する。

2-5-3. フローゾーンのアセットの価値段階の合計の多い方が勝利する。

2-5-4. じゃんけんで勝った方が勝利する。

3. デッキの組み方

3-1. 1つのデッキは、50枚ちょうどのカードで構成しなければならない。

3-2. 同じ名前のカードは、1つのデッキにつき最大4枚までしか入れることができない。(たとえば、通常のA0003/V1S「日本株」と、レアカードのA0003/V1B「日本株」も、同じカードとして扱う。)

3-3. 3-2の例外として、以下のカードは、1つのデッキに入れることができる枚数に制限がある。

【R0002/V1S「ビルトインスタビライザー」】は、1つのデッキにつき最大2枚までしか入れることができない。(2013.11.1 改訂)

【E0043/V1SM「投資信託」】は、1つのデッキに1枚しか入れることができない。

3-4. アセットカードは、1つのデッキに最大15枚までしか入れることができない。また、コスト0のアセットを最低3枚入れなければならない。

3-5. 【EVPO001/V1B「ALLSTAR1」】や、【EVPO002/V1B「ALLSTAR2」】のような、「プロモ」属性をもったカードは、公式戦ではデッキに加えることができない。

4. ゲームの進め方

4-1. 準備

- ・コスト0のアセットを3枚、フローゾーンに伏せて置く。
- ・残りのカードをよくシャッフルし、裏返して山札置き場に置く。
- ・山札の上から4枚をとり、手札にする。
- ・じゃんけん等をし、勝った方が先攻か後攻かを定めることができる。
- ・伏せておいた3枚のアセットを表にする。→ゲームスタート！

4-2. 自分のターン

- ・山札から2枚のカードを引く（一番最初の先攻の場合のみ、1枚）。
- ※必ず引かなくてはなりません。「引かない」という選択はできません。
- ・手持ちのカードがある限り、イベントやアセットを使用できる。
 - ・ターン終了を宣言することで、自分のターンは終わり、相手のターンとなる。
 - ・自分のターン終了時に自分の手札が7枚以上ある場合は、6枚以下になるようカードを捨てなければならない。

4-2-1. 自分のターン中などに、イベントなどを使わず自分のフローゾーンのカードを破棄することはできない。自分のアセットカードでも、自由に破棄できない。

4-3. 相手のターン

相手がイベントカードを使用した際に、相手のイベントカードに対して有効なリスクヘッジカードを持っているれば、使用できる。(無効なリスクヘッジカードは使用することができない)

4-4. ゲームの終了

いずれかの「勝利条件」が満たされたときにゲームは終了する。

4-5. リスクヘッジカード

4-5-1. リスクヘッジカードは、「相手のターン」に、「相手がイベントを出したとき」に、使うことができる。

4-5-2. 自分のターンでは使用できない。相手のターンでも、相手がイベントを発動していない時には使用することができない。

4-5-3. リスクヘッジを出せるのは、相手のイベントカードに対して有効なリスクヘッジカード

を持っている場合のみである。(たとえば、「詐欺」属性のないイベントカードに対して、「金融知力」を使うことはできない。)

4-5-4. 相手のリスクヘッジカードに対して、さらにリスクヘッジカードを出してその効果に影響を及ぼすことはできない。

4-5-5. 相手の1つのイベントカードに対して、2つ以上のリスクヘッジカードを使用することはできない。

4-5-6. リスクヘッジカードは、イベントカードの効果が発動される直前にその効果を発動する。

例1) 相手がイベント「振り込め詐欺」を使った時に、リスクヘッジ「金融知力」を使用した時: 「金融知力」の効果により、「振り込め詐欺」の効果は無効となる。

例2) 相手がイベント「巨大災害」を使った時に、リスクヘッジ「生命保険」を使用した時: 巨大災害の効果により破棄することになった自分のフローゾーンにあるアセットのうち1枚を、そのままの価値でフローゾーンに残す。

例3) 相手がイベント「資産インフレ」を使った時に、リスクヘッジ「共産党宣言」を使用した時: 「共産党宣言」の効果によりお互いのストックを全て破棄した後、「資産インフレ」により、現物資産系の価値が2上昇する。

4-5-7. イベントを使用したプレイヤーは、たとえリスクヘッジの効果によりイベントが無効になったとしても、イベントを使用するときに支払ったコストを取り戻すことはできない。

4-6. 「効果」欄の表現について

4-6-1. カードの「効果」で使われている表現が、「する」の場合は強制的に効果を適用しなくてはならない。「できる」の場合、対象となっているプレイヤーがその処理を行うかどうかを決めることができる。

4-6-2. 単に「アセット」や「フローゾーン」などと書かれている場合、その対象は双方のプレイヤーとなる。どちらか一方に限定される場合、「自分の」「相手の」のようにプレイヤーを限定させる言葉が使用される。

5. デッキ・手札・山札に関するプレー上の注意

5-1. 手札のドロウについて

5-1-1. 手札を間違えて多く引いてしまった場合、そのことを、自分がそのターンに何らかのカードを行使するまでの間に対戦相手から指摘されたときは、そのターンに引いたカードを全て山札に戻し、山札をシャッフルした後、2枚(先攻の1ターン目は1枚)だけ引きなおさなければならない。

5-1-2. 手札を間違えて少なく引いてしまった場合、そのことを対戦相手から指摘された場合は、

自分のターン中であれば、少なく引いた分を追加で引かなければならない。

5-2. 手札について

5-2-1. 対戦中は、対戦相手に自分の手札の枚数がはっきりわかるように持っておかなければならない。

5-2-2. 自分の「ターン終了」の宣言後に7枚以上の手札があったとき、そのことを対戦相手から指摘された場合は、その場で手札の枚数を6枚以下にしなければならない。

5-3. 山札について

5-3-1. 山札が倒れて中身が見えてしまった場合、山札を再びシャッフルしなければならない。

5-3-2. 相手の山札を故意に倒す、相手の手札を故意に落とす等の行為を審判が確認したとき、それを行ったプレイヤーは反則負けとなる。

5-4. 遅延行為について

5-4-1. 相手の山札の枚数や、捨て札置き場のカードなどのチェックは、相手に反則の疑いがある時だけ、最低限の回数のみ可能である。反則の疑いのない時にチェックを要求する行為や、何回もチェックを要求する行為は、遅延行為として、審判が反則負けとすることができる。

5-4-2. 捨て札置き場に「3R 政策」しか存在しないときに、「3R 政策」を使用することはできない。繰り返し同様の行為を行った場合、遅延行為として反則負けになることがある。

6. 反則について

6-1. 経済 TCG エコノミカは、子どもから大人まで、年代を問わず一緒になって、楽しく経済について学んで欲しいというコンセプトから生まれたトレーディングカードゲームである。そのため、この精神に著しく反する行為、フェアプレー精神に反する行為、重大なマナー違反等の行為は、審判の権限として、反則負けにすることができる。

6-2. ゲーム開始後、相手のデッキにルール違反の疑いがある場合は、審判立会いの下で、相手の山札、捨て札および手札をチェックすることができる。デッキがルールを満たしていないと判断された場合、審判の権限として、反則負けにすることができる。

6-3. 各大会ごとの事情により、追加ルールが設定されることがある。

6-4. このルールに記載されていない事項については、審判、もしくは審判団が最終的な判断を行う。

7. カードに関する詳細な補足説明

○A0002/V1S「定期預金」

- ・このアセットが手札を1枚捨てることによって価値段階1の状態でフローゾーンに残ること

ができるのは、このアセットがフローゾーンにある状態で、破棄の対象、あるいは価値段階が0以下になるときのみである。(手札や山札、あるいはストックゾーンから破棄される場合は、このアセットの能力は発動できない)

○A0004/V1S「日本国債」

・このアセットがイベントの影響を受けないのは、このアセットがフローゾーンにあり、かつ<国家>の属性を持たないイベント・リスクヘッジのみに限定される。

○A0006/V1S「新興国株」

・このアセットが価値変動の影響を2倍受けるのは、海外資産系のアセットの価値が変動するときのみである。(例:「好況」や「不況」など、特定のアセットを選択して価値を変動させる効果を持ったカードの影響は2倍にはならない)

○E0002/V1S「振り込め詐欺」

・破棄の対象となる相手のアセットは、フローゾーンにあるアセットに限定される。(手札や山札、ストックゾーンのアセットは破棄の対象とすることができない)

○E0004/V1S「国家財政破綻」

・「名前に<国債>と入っているカードを全て破棄」とあるが、これはフローゾーンにある、名前に<国債>と入っているカードのみに適用される。(ストックゾーンや手札、山札にある、名前に<国債>と入っているカードは破棄の対象とはならない)

○E0008/V1S「巨大災害」

・「その後、自分も同様にする」とは、相手がまず自身のフローゾーンにあるアセットの枚数に応じて自身のアセットを破棄し、その後、自分も自身のフローゾーンにあるアセットの枚数に応じて自分のアセットを破棄する、という意味である。(相手のフローゾーンにアセットが4枚あり、相手がアセットを2枚破棄したからと言って、自分も自動的に2枚フローゾーンにあるアセットを破棄しなければならないというわけではない)

・「巨大災害」の破棄対象として、「日本国債」を選択した場合は、「日本国債」は破棄されない。(「巨大災害」は<国家>の属性を持たないカードであるため)

・「巨大災害」の破棄対象は、フローゾーンに4枚以上ある場合は、2枚同時に選択し、2枚同時に破棄しなければならない。(1枚のカードを2回選択し、それを2回破棄するという解釈は不可)

○E0010/V1S「産業の空洞化」

・「産業の空洞化」の効果が発動するためのコストとして、「日本国債」を選択した場合、選択された「日本国債」は破棄される。(「日本国債」は「<国家>の属性を持たないイベントの影響を受けない」であるが、この場合、「産業の空洞化」の効果が発動するためのコストとして扱

われるので、破棄の対象となりうる)

○E0012/V1S「ねずみ講」

・「投資信託」によって2枚のアセットが重ねられてフローゾーンに存在する場合でも、「ねずみ講」によって破棄されるカードの枚数には1枚としてカウントされる。

○E0015/V1S「株式配当」

・「株式配当」の効果は、強制力を持つ。(例：自分のフローゾーンに「日本株」が2枚、「預金」が1枚あり、さらに相手のフローゾーンにも「預金」が1枚あった場合、「株式配当」の効果によって両者の「預金」の価値段階が1段階ずつ上昇する。

○E0017/V1S「ニート」

・「ニート」によって制限対象となる「イベント」には、「リスクヘッジ」カードは含まれない。

○E0018/V1S「年金未納問題」

・このイベントによる効果は、次の相手のターン開始時のみ適用される。(ターンの途中でイベントの効果などによってカードを引くことはできる)

○E0029/V1B「M&A」

・M&Aによって価値段階を移動させる移動元のアセットとして、「日本国債」を選択した場合、「日本国債」は破棄されない。

○E0030/V1B「相場操縦」

・「相場操縦」の効果はリスクヘッジによって止める場合、<「相場操縦」の使用宣言→コストの支払い→価値段階を変動させる対象・どう操作するかを選択→リスクヘッジの発動>という流れになる。(つまり、「相場操縦」に対してリスクヘッジを発動するか否かは、対象・価値変動の選択を待ってからとなる。)

○E0032/V1B「赤字国債発行」

・「赤字国債発行」の効果には、強制力がある。(山札がある限り、3枚引かなければならない)

○E0033/V1B「預金利息」

・「預金利息」の効果には、強制力がある。(「預金利息」を使用したか、預金系のアセットの枚数よりも少ない枚数だけカードを引くという事はできない。)

・相手が使用した「預金利息」の効果によって、自分の手札が7枚以上になってしまっても、相手のターンの終了時に手札を捨てる必要はない。(手札を捨てる必要が生じるのは、自分のターンの終了時のみ)

・「投資信託」によって2枚重ねられたアセットの、下側のカードが預金系のカードであった場合でも、「預金利息」によって引くカードの枚数は増加しない。

○E0034/V1B「保障停止」

・「保障停止」の効果は、「保障停止」の次に自分が使用するイベントに対してのみ適用される。
（「保障停止」→「インベスト」→「イベント1」→「イベント2」の順番でイベントを使用した場合、相手は、「イベント1」に対してはリスクヘッジを使用することはできないが、「イベント2」に対してはリスクヘッジを使用することができる）

○E0037/V1B「インサイダー取引」

・自分は山のカードを上から5枚相手プレイヤーに公開して、好きな順番に並べ替えるが、並べ替えた後のカードの順番を相手プレイヤーに公開する必要はない。

○E0039/V1B「都市鉱山」

・「自分の捨て札置場に『ゴールド』が3枚以上あるときに使用する」とは、「都市鉱山」の使用を宣言する前の段階で「ゴールド」が3枚以上あるときのことを指す。（「都市鉱山」を使用するためのコストとして捨て札置場においた「ゴールド」はカウントされない）

○E0040/V1B「ニューディール政策」

・「自分の手札を好きな枚数山札に戻す」には0枚も含まれる。その場合でも、山札のシャッフルは行われる。

○E0042/V1B「預金積立」

・リスクヘッジによって「預金積立」の効果は無効にすることができるが、「預金積立」の効果適用された後に、相手のインベストを止めることはできない。（自分の前のターンに「景気低迷」を使っていれば、相手はインベストをすることはできない）

○E0043/V1SM「投資信託」

・1度だけ自分の手札のアセットを2枚重ねてフローゾーンに登場させることができる。これら2枚のアセットは、フローゾーン上では1枚のアセットとして扱われる。上のカードのコスト、価値、価値変動を適用する。

・このカードは、1つのデッキに1枚までしか入れることができない。

・アセットをフローゾーンに登場させる時のコストは、上側に重ねたアセットの分のみを支払う。

・フローゾーン上では、このカードは1枚のアセットとして見なされる。つまり、フローゾーンの4枠が埋まっている状態でこのイベントを使用した場合、フローゾーン上に実際は6枚のアセットが存在しますが、5枚としてカウントされるため、フローゾーンのアセットの枚数の上限を超えるとは扱わない。「巨大災害」「預金利息」などフローゾーンのアセットの枚数に影響されるイベントカードに対しても、1枚のアセットとしてカウントされる。

・アセットは、通常通り価値段階2の状態が登場させます。

・下側のカードの価値や価値変動は、上側のカードに従います。

・価値段階が5になってストックゾーンへ送られた後は、ストック2枚としてカウントされません。

(使用例)

「日本国債」を上側に、「定期預金」を下側にして重ねてフローゾーンに登場させる場合：

・登場時は、上側のカード「日本国債」のコスト1のみを支払う。

・登場時は価値段階2で登場させる。

・価値および価値変動は、2枚とも、上側のカード「日本国債」に従う。(「国家」属性をもったカードしか影響を与えられない。「いざなぎ景気」が発動されれば、2枚同時に価値段階が+1される。「国家財政破綻」が発動されれば、2枚とも同時に破棄される。)

・価値段階が5になり、ストックゾーンへ送られた時、ストックゾーンでは2枚のアセットとしてカウントされる。

○R0003/V1S「生命保険」

・「イベントによって破棄が宣言されたカード」に、相手のアセットは含まれない

・「価値変動+破棄」の効果を持つカードによって破棄対象となったカードに対して「生命保険」を発動した場合、価値変動後の価値段階で、そのカードはフローゾーンにとどまる。(例：価値段階4の「日本国債」が自分のフローゾーンにあり、相手が「国家財政破綻」の使用を宣言してきた際に、「生命保険」を使用した場合、価値段階2の状態、「日本国債」はフローゾーンにとどまる。)

○R0005/V1B「セーフガード」

・セーフガードによって防がれるイベントの影響は、自分に対する影響のみ。(自分に対してもともと影響のないイベントに対しても、「セーフガード」を使うことはできる)

・「モラルハザード」や「預金利息」に対して「セーフガード」を使用し、相手が手札を1枚捨てて「セーフガード」の効果を無効にしなかった場合、相手のみが「モラルハザード」や「預金利息」の効果の適用を受ける。

○R0006/V1B「遺産相続」

・「イベントによって破棄が宣言されたアセット」には、相手のアセットは含まれない。

・「自分のフローゾーンにある他のアセット」とは、自分のフローゾーンにある、破棄宣言がされていないアセットのことを指す。

・「巨大災害」の効果によって2枚のアセットの破棄が宣言されたときは、それら2枚のアセットの価値段階をそれぞれ自分のフローゾーンにある破棄宣言がされていないアセットに加えることができる。(例：価値2の「預金」、価値3の「日本株」、価値4の「ドル」、価値1の「ワールド」、価値4の「新興国株」が自分のフローゾーンにあり、相手が「巨大災害」を使用して

きた際に、「ゴールド」と「日本株」を破棄することを選択したのち、自分が「遺産相続」をリスクヘッジとして発動した場合、「ゴールド」の価値段階である1を「新興国株」に加え、「日本株」の価値段階である3を「ドル」に加えて、「新興国株」と「ドル」をストックゾーンに送ることができる。ただし、「ゴールド」と「日本株」の価値段階を合計した価値段階4を好きなように再分配できるわけではない)

○R0007/V1B「へそくり」

・「へそくり」によって捨て札置場からコスト0のアセットが価値段階1でフローゾーンに登場するのは、相手のイベントカードの効果が実際に発動される直前。

○R0009/V1B「共産党宣言」

・このカードはリスクヘッジカードである。相手のターン中に相手がイベントの使用を宣言したときにのみ使用することができる。

・「共産党宣言」の効果によってお互いのストックが破棄されるのは、相手のイベントカードの効果が実際に発動される直前。

ルールの改訂 2013年11月1日発表 この裁定は、2013年11月4日から有効とする。

○デッキ制限に関するルールの改訂

①以下のカードは、1デッキ内の上限枚数が2枚となる。

・R0002/V1S【ビルトインスタビライザー】

○用語の新設・修正

①用語を新設する。

・アセット系統

「預金系」「国内資産系」「海外資産系」「現物資産系」の4種類を総称して、「アセット系統」と呼びます。

②プレイシートとカードテキストで食い違いのあった用語を統一する。

・「フローフィールド、マーケットフィールド、ストックフィールド」

→「フローゾーン、マーケットゾーン、ストックゾーン」

ルールの改訂 2015年8月5日発表 この裁定は、2015年8月6日から有効とする。

○デッキ制限に関するルールの改訂

以下のカードは、1デッキ内の上限枚数が1枚となる。

・E0043/V1SM【投資信託】

○カードの効果の修正

以下のカードの「効果」欄の表現を修正する。

R0003/V1S「生命保険」

(旧) イベントによって破棄が宣言されたカードを一つ選択する。そのカードは、そのままの価値でフローゾーンに残る。イベントカードによる価値変動の結果、価値段階が0以下になった場合はこのカードは使用できない。

(新) イベントによって破棄が宣言された自分のアセットを一つ選択する。そのカードは、そのままの価値でフローゾーンに残る。イベントカードによる価値変動の結果、価値段階が0以下になった場合はこのカードは使用できない。

R0006/V1B「遺産相続」

(旧) イベントによって破棄が宣言されたアセットの価値段階を、自分のフローゾーンにある他のアセットの価値段階に加えることができる。

(新) イベントによって破棄が宣言された自分のアセットの価値段階を、自分のフローゾーンにある他のアセットの価値段階に加えることができる。